



福岡県立伝習館高等学校自然科学部

伝習館高校自然科学部

福岡県柳川市本町 1 4 2

絶滅危惧種ニホンウナギの水槽から
生命に支えられた持続可能な社会を展望する



Action

伝習館高校自然科学部は、2014年に国際自然連合がニホンウナギを絶滅危惧ⅠB類に指定した時からウナギの蒸籠蒸しを観光資源とする柳川をニホンウナギのサンクチュアリにするための研究と活動を進めています。2018年から地元との合意形成の末、みやま市南部を流れる飯江川でも同様の活動を始めました。飯江川では地元小学校と協働で放流したニホンウナギのモニタリングと飯江川の水生生物調査のために石倉かごを設置しました(写真)。

現在までに柳川掘割と飯江川に約6800尾ニホンウナギ稚魚を標識放流しましたが、飼育中に多くを感染症で死亡させてしまいました。そこで様々な実験と試行錯誤の末、飼育中の水槽にクヌキ落葉を入れると感染症にウナギが罹らなくなり初期死亡が減少することを発見しました。この死亡率低下のしくみも分かり、水槽内の落葉の効果で持続可能な環境が維持されていることが示唆されました。そこで私たちはSDGsの18番目のゴールを提唱します。